

主役はMaaSプラットフォーム、安全運行など担保する存在へ

商品企画第一部シニアマネージャー 千葉直史氏に聞く

自動運転タクシーサービスが主導、 移動型商業サービスも普及へ



オーナーとして新しいサービスの創出基盤になる計画を明らかにした。トヨタは主に自動運転車の車両部分を担い、それに載せる店舗については、ピザ会社やレストランなどさまざまな商業サービス事業者と共同で作っていくという。この発表は、自動運転車とあらゆる業態がコラボレーションする移動型商業サービスの大きな可能性をあらためて広く知らしめる機会となった。

移動型商業サービスが一般化すると、例えば不動産の「好立地」というこれまで商業にとって極めて重大だった要素がその意味合いを劇的に変える可能性がある。例えば物販業者で、お客さまを集めるために高い家賃を支払って好立地に店を構えているような事業者は、将来、MaaSプラットフォーム上での事業展開とどちらがより優位かを真剣に検討する必要に迫られるかもしれない。

物流サービスについても自動運転トラックやドローンを活用した革新的な新サービスが創出される可能性がある。

■不可欠なMaaSプラットフォームの存在

こうしたさまざまな革新的な「MaaS」関連サービスが創出・普及する上で、一番重要な地位を占めるのは、やはりMaaSプラットフォームに分類される企業だろう。高度な自動運転技術を有してMaaSプラットフォームとなり得る企業の多くを、市場ではまだ、自動車会社、またはテクノロジー企業と認識するにとどまっているといえそうだが、今後、特に自動運転車の本格的な普及プロセスが進むと、こうした評価は大きく変わるかもしれない。

(下)は17日付に掲載

型)」も、現時点ではまだ株式市場が十分認識していないMaaSという新たな巨大産業を見通した、「ベンチャーキャピタル」の視点を内包したファンドといえるかもしれない。

■自動運転タクシーサービス

現時点で見えてきた「MaaS」の新しいサービスをいくつか挙げてみたい。例えば、自動運転タクシーサービスは最初の有望サービスになる可能性が高い。特に最寄りの駅から自宅に帰る時や、もしくは大都市中心部の2つの近い地点を結ぶような用途で使われることになると考えられる。自動運転タクシーの実用化にあたって、既存のタクシー会社は、街中で利用者を見つける技術や、効率的にルートを検索する技術などといった配車の部分、もしくは利用者に快適な乗り心地などを提供するサービスの部分で強みを発揮する可能性がある。

一方で、安全かつ自律的な走行、もしくは的確に目的地にたどり着ける技術を担保するのはMaaSプラットフォームだろう。既に多くの先進事例が報道されており、例えば米グーグル傘下の自動運転車開発会社のウェイモはアリゾナ州で乗客を乗せての完全自動運転車の公道実験を展開中で、年内にも商業ベースでの無人自動運転タクシーサービスを展開する方針といわれている。主要国の中では、特に米国や中国が、ともに大きな自動車産業・市場を有する国とあって、早期の自動運転タクシーのサービス開始が期待されている。もちろん日本でも将来の事業化の可能性は大きい。

■移動型商業サービス

移動型商業サービスも大きく期待されるビジネス領域だ。この分野では、トヨタが今年1月に米ラスベガスで開催されたCES 2018でモビリティ・サービス会社への転進を大きく打ち出したことが記憶に新しい。同社は「e-Palette」という移動や物流、物販などに活用できる専用次世代電気自動車のコンセプトを掲げ、MaaSプラットフ

■MaaS (マース) プラットフォーマーとは

MaaSプラットフォームとはどのような企業か。高い自動運転技術を有し、早い段階でMaaSの市場に参入できる企業というのが現時点での第一条件だ。

特に自動運転の仕組みに関しては、どうしても世界中で同じ自動運転システムを汎用的に活用するという事は現実的には困難だと考えられる。そのため、「グローバル・モビリティ・サービス株式ファンド(1年決算型)」の運用助言を行うアーク社は、現在各社が公道実験を行っているように、限られた都市や特定の駅の周辺など、地域ごとに異なる交通ルールや交通量に即した事業を独占的に展開するようなビジネスになるのではないかと予想している。

■ベンチャーキャピタルの視点

MaaSプラットフォームのように、現時点では存在しない、あるいは生まれて間もないビジネスにおける勝者を見極めるためには、アーク社のような独自の視点で銘柄選定を行うことが重要だと考えている。アーク社は「ベンチャーキャピタルの視点で投資を行う」運用会社と形容できるかもしれない。ベンチャーキャピタルは、世の中を大きく変え得る新しいビジネスを見つけ、その新市場の規模や成長スピードを予測した上で、個別企業の成長可能性に落とし込んで投資判断を行う。アーク社は上場企業を投資対象とするものの、ベンチャーキャピタルと同様に世の中を激変させ得る技術=破壊的イノベーションについて綿密な調査を行い、新たな市場を作り出すであろう企業の技術や経営者のビジョン、競合対比の優位性などに基づいて投資対象を選別する。彼らの調査においては、たとえ大企業であったとしても、破壊的イノベーションの種を持つ企業であれば、成長のアーリーステージにいる企業としての側面に着目して投資対象に加える。「グローバル・モビリティ・サービス株式ファンド(1年決算